

東日本大震災現地NPO応援基金

『しんきんの絆』復興応援プロジェクト

第4回助成事業報告集





プロジェクト趣旨

『しんきんの絆』復興応援プロジェクトは、東日本大震災により被災した地域の復興のために、民間非営利組織が行う草の根の日常生活の再建や、地域コミュニティ・文化の再生活動など「地域の絆」をつなぐ活動を応援するプロジェクトです。

実施にあたっては平成27年に信用金庫が募集した『しんきんの絆』復興応援定期積金Ⅱの募集総額の0.2%相当額について、信金中央金庫を通して、日本NPOセンターの「東日本大震災現地NPO応援基金(特定助成)」へ寄付を行っており、その寄付金をもとに同基金の特定助成として民間非営利団体への助成を行っています。



第4回助成概要

■ 助成期間：2016年10月～2017年9月

■ 助成件数：21団体（一般公募枠：10団体
信用金庫推薦枠：11団体）

■ 助成金額：7,176万円（一般公募枠：3,559万円
信用金庫推薦枠：3,617万円）



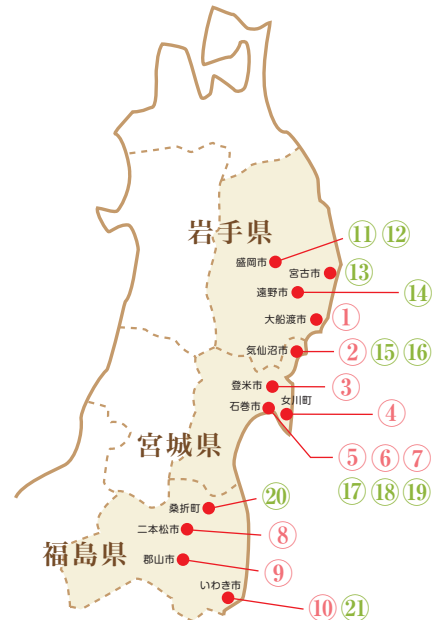
第4回助成団体

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	一般社団法人かたつむり	障害者就労施設の高台移転・就労環境整備	岩手県大船渡市
②	気仙沼あそびーばーの会	心の居場所「あそびーばー」	宮城県気仙沼市
③	特定非営利活動法人 ウィメンズアイ	地元を元気にするスタートアップ加工場Oui	宮城県登米市
④	一般社団法人コミュニティスペースうみねこ	女川町の新しい商品づくり	宮城県女川町
⑤	特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク	石巻圏域の子育て環境改善のためのプログラム開催事業	宮城県石巻市
⑥	一般社団法人こころスマイルプロジェクト	震災で心に傷を負った子どもと保護者への心のケア	宮城県石巻市
⑦	特定非営利活動法人 夢みの里 青い鳥児童館	『地域共生の子育て』の基盤創りと『障害児の適切な療育環境整備と居場所創り』とその家族支援	宮城県石巻市
⑧	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市東和地域の桑畑復活プロジェクト～震災後の六次化推進の再構築～	福島県二本松市
⑨	特定非営利活動法人 しんせい	被災障がい者による協働の仕事づくり事業	福島県郡山市
⑩	認定特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室たらちね	「たらちね検診センター」開設プロジェクト	福島県いわき市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑪	特定非営利活動法人 未来図書館	小中高生と大人が学びあう地域の絆プロジェクト	岩手県盛岡市
⑫	特定非営利活動法人 いわてNPOフォーラム21	住民共助による地域支え合い活動推進事業	岩手県盛岡市
⑬	黒森神楽保存会	黒森神楽文化価値再生発信事業	岩手県宮古市
⑭	特定非営利活動法人 遠野まごころネット	被災地のコミュニティ再生となりわいづくり事業	岩手県遠野市
⑮	一般社団法人 前浜おらほのとおておき	生態系適応型コミュニティ開発と交流人口の拡大	宮城県気仙沼市
⑯	一般社団法人 気仙沼観光コンベンション協会	第30回気仙沼天旗まつり記念事業プロジェクト	宮城県気仙沼市
⑰	NPO石巻広域クリエイティブアートの会 ペンギンズアート工房	ペンギンズギャラリー (地域の人たちと障がいのある人たちの芸術作品の交流できる空間づくり)	宮城県石巻市
⑱	一般社団法人 長面浦海人	石巻市大川地区住民による「ふるさとの記憶」再生事業	宮城県石巻市
⑲	石巻復興幸踊りエンヤドットプロジェクト実行委員会	石巻復興幸踊りエンヤドットプロジェクト	宮城県石巻市
⑳	特定非営利活動法人 ささえ愛ふらっと	ふれあいの居場所設備充実事業	福島県桑折町
㉑	公益社団法人 いわき青年会議所	第5回いわき「光のさくらまつり」	福島県いわき市





団体紹介

所在地 岩手県大船渡市

団体の設立目的

障害者の生活支援や就労支援、地域社会の中における居場所の確保を目的に設立した。

主な活動

- ・指定障害者就労継続支援事業所の運営、就労支援・日中一時支援サービスの提供
- ・農福連携事業の企画運営ならびに福祉農園の運営
- ・地場産品を利用した6次化商品の企画・製造・販売
- ・「成人を祝う会」など地域障害者とその家族、関係者との交流事業の企画・運営
- ・復興支援や被災者支援などを含む防災用品や長期保存が可能な食品の企画・製造・販売



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

障害者就労施設の高台移転・就労環境整備

〔事業内容〕

浸水地域から高台へ新築移転(同時に定員倍増)する障害者就労支援B型事業所の運営に必要な機器、食事提供や調理加工作業に必要な厨房機器、オリジナル商品づくり等、就労作業に必要な機器の整備を行う。

また、年間を通して地域の企業やシニアの方々と連携・協働できる就労作業環境の整備支援や、ハウス型福祉農園の整備や地場産品を活用した6次化製品の開発のための環境支援という、障害のある方々の就労環境整備、施設整備を行う。

〔事業目標〕

- ① 事業所の高台移転に伴う機器備品の環境整備
- ② 福祉農園の整備



ハウスの外観



落成祝いでお越し頂いた方との集合写真

参加者・利用者の声

● ハウスでの農作業は楽しいよ。雨降ってても濡れなくていいし…

● 夏は汗いっぱい出る。もう秋になっけど、暑いくらいだよ。トマト…早くおがって(成長して)くれるといいがねえ。



助成事業の成果

事業所の高台移転に伴う機器備品の環境整備

食器類、鍋やフライパンなど調理厨房機器の整備、作業室への温湿度計機能や時報機能の付いた掛け時計、ラベルプリンタやリボンプリンタなどの整備を行うことができた。

福祉農園の整備

育苗系作業を中心に行うことができるハウス環境を整えた。ハウス完成後、ミニトマトや加工用トマトを種から発芽させ、育苗し、ハウス栽培を行う企業へ出荷したり、オリジナル商品を開発するための試作用苗として定植することができた。

助成事業の今後の展望・課題

高台移転を済ませ、就労(昼食)環境も整ってきたので、支援学校高等部や在宅障害者の方からの作業所就労体験実習希望者が増加している。車イスやウォーカーを利用される方、視覚障害のある方などその希望者にも幅が出てきていることから、施設的な整備や提供できる就労作業、サービスの品質にも一層の工夫が必要となってくるものと予想される。

「居場所のない子ども(人)をつくらない」という考えの下、家庭・家族以外の人に安心して我が子を預けられる環境(障害のある方が安心して過ごせる環境)をつくるという当事者と家族の視点を忘れずに、サービスを提供していきたい。

気仙沼あそびーばーの会

日常生活の
再建事業

2



団体紹介

所在地 宮城県気仙沼市

団体の設立目的

震災により、校庭には仮設住宅、公園は流され、地域コミュニティも壊れた状態の中、日本冒険遊び場づくり協会が、遊びを通じた子どもの心のケアを目的に設立した。

主な活動

- ・常設の遊び場「気仙沼あそびーばー」の開催
- ・出前遊び場の実施
- ・地域の手で立ち上げた「匠ななすびの会」の活動サポート
- ・子ども食堂「ほしぞら食堂」と「未来食堂」の開催



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

心の居場所「あそびーばー」

〔事業内容〕

主に気仙沼市本吉町大谷地区内にある常設の遊び場「気仙沼あそびーばー」の運営を通して、子どもを含んだ地域住民の遊び場・居場所・交流の場を担う活動を行う。出前遊び場の実施や地域住民向けのお茶会の実施、週末食堂で「食を通じた子どもへの支援」も行う。また、広報活動を通して団体活動を広く伝え、団体の認知度を高める活動にも取り組む。

〔事業目標〕

- ①「気仙沼あそびーばー」が地域住民(子ども含む)にとっての「遊び場・居場所・交流の場」となること
- ②「気仙沼あそびーばー」を年間開園し、子ども2,000名、大人1,000名程度が来園すること
- ③地域住民が活動を通して元気になり、交流促進や生きがいがいづくりにつながること



ほしぞら食堂の子どもの様子



匠ななすびの会の活動(毎週木曜に実施)

参加者・利用者の声

匠ななすびの会の参加者の声

- これだけが楽しみでいるの。
- 地域で子どもの笑っている声がこうして聞こえるとこっちも元気になる。

常設の遊び場「気仙沼あそびーばー」を利用する子どもの声

- あそびーばーがあって本当に良かった。

助成事業の成果

気仙沼大谷地区の常設の遊び場が地域住民(子ども含む)にとっての「遊び場・居場所・交流の場」となっており、これを維持することができた。さらに、地元の小学校教育徒があそびーばー体験学習を冬と春に行う等、地域にとって大切な場となっていると再確認することができた。

また、地域住民が匠ななすびの会を通して元気になり、「毎週早く来ないかと待ち遠しい」といった声も寄せられており、後期高齢者の交流促進・生きがいがいづくりの場となった。

出前遊び場の実施は5回となり、気仙沼の他団体と協力して実施することができた。

地域の広報誌「あそびーばー一つうしん」は毎月500部程度、事業報告書も気仙沼市内外の協力団体や寄付者に200部発行することができた。

助成事業の今後の展望・課題

今年度は子ども食堂の開催を増やしたことや、出前遊び場の実施場所の拡大に加え、既存の常設の遊び場運営・地域住民の匠ななすびの会の活動支援等により、スタッフが現場運営に追われることが多かったように感じた(職員が前期に減ったことも要因としてあげられるため、スタッフ育成の強化も課題)。

今後は、事業を通して新たにできた他団体との連携やコミュニティを密にできるよう力を注いでいきたい。



団体紹介

所在地 宮城県南三陸町

団体の設立目的

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県北において、女性が活躍できるしなやかな社会、あらゆる人たちの命・生活・尊厳が守られる社会を創造していくことを目的に設立した。



主な活動

- ・広域生活圏におけるテーマ型コミュニティ育成事業
- ・女性たちが力をつける事業（小さな生業、スキルアップなどのサポート）
- ・岩手・宮城・福島の次世代女性リーダーの育成事業
- ・防災・減災に関わる講演、ワークショップ、視察受入事業

助成事業

（助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日）

地元を元気にするスタートアップ加工場Oui

〔事業内容〕

宮城県南三陸町に2017年2月末開業した「パン・菓子工房Oui」において、地域の女性たちの加工場の共同利用、維持管理を行う。加工場の利用にあたっては、登録制を導入し、利用者のためのスキルアップ講座や商品の販売支援を行い、将来的にはその場所を活用する女性たちで協同組合を立ち上げる。また、加工場を利用したWEパン（自社商品）の企画製造・販売も行っている。

〔事業目標〕

- ① 食事業に関わる女性たちの協同組合の立ち上げ（組合員15名）
- ② 自社商品および工房利用料の年間の売上規模200万円

参加者・利用者の声

● 私はベーカリーカフェをやりたいのですが、家庭があり、いきなり借金をして施設を建てることはハードルが高く感じられました。しかし、工房Ouiを利用することで、自分の屋号のパンの販売や宣伝が始められました。また、製造から販売まですべて行い、自分で稼ぐ経験ができたことで、自分が将来パンづくりを仕事にする明確なイメージができ、自信が持てました。（パン工房ひこばえ 高橋えり／工房利用者）

● 先日マルシェでは、牛乳の丸パン、桑の葉あんぱん、トマトのフォカッチャ、かやの実ビスコッティを製造、販売し当日は午前中に完売しました。私たちは「地元の小麦や食材を使い、できるだけオーガニックにこだわり地元の自然や風物を活かしたい」という思いで活動しています。Oui工房があるお陰でパンが焼け、講師の先生に習い少しずつスキルアップしてきました。自分たちの暮らしている南三陸町には、豊かな食材があることをこの活動を通して、改めて気づくことができました。でき上がったパンの形や焼き色にばらつきがあって、どうしようと思うこともありますが、手こねで一つずつ焼き上げています。まだまだ未熟な私たちですが、お陰さまで製造し販売できるようになりました。これからも「こむぎ」のメンバーとともに活動していきたいと思っています。（こむぎ 代表 仲松美佐／工房利用者）



工房利用者が参加したスキルアップ講座



工房外観（直売用の小窓あり）

助成事業の成果

工房利用者の募集を昨年12月に開始し、説明会を実施する中で、町内だけでなく石巻市、気仙沼市、登米市も含め現在15名が登録している。利用者向けに製パンのスキルアップ教室を4回開催し、製造技術の指導をいただいた。また、自社製品の製造・販売は、ほぼ週2回の工房直売を中心に月商12万円を達成している。9月には仙台のマルシェに出店したり、町内の事業者さんからオリジナルの焼き菓子の注文を頂くなど販売先が拡大している。

助成事業の今後の展望・課題

工期の遅れにより、工房の開業が2か月遅れたこともあり、年間売上目標は達成することはできなかったが、月商レベルでは目標を達成している。また、年2回のひころマルシェでは、複数の工房利用者が出店するために工房がフル活用され、潜在的な生産力を垣間みることができた。共同加工場としての存在や加工場で作られるパンについて、地域の人々の認知度も上がっている。今後は、工房の利用者と将来の工房の経営や運営維持に関する打ち合わせを定期的実施し、将来の体制づくりをしていきたい。



団体紹介

所在地 宮城県女川町

団体の設立目的

地域コミュニティの強化に関する事業を行い、被災地の産業と雇用に寄与するとともに、高齢者や子育てママ、何かしら障害を持っている方もお互いが協力しながら、誰もが生き生きと活動できる場の提供を目的に設立した。

主な活動

- ・ 高齢男性による畑作業
- ・ 高齢女性による食堂
- ・ 小物づくりと販売
- ・ 修学旅行や研修、企業の受け入れ
- ・ さんまなたい焼き



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

女川町の新しい商品づくり

〔事業内容〕

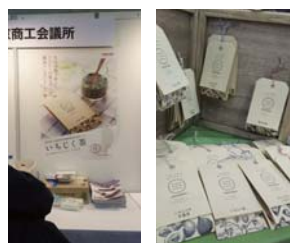
震災から2年経った2013年の春に、塩害の被害にあったイチジクの木が青々とした葉をつけ、この木を復活させたいという思いから140本に増やした。イチジクは震災以前からこの地域に当たり前にある食材であり、よく食される甘煮のほか、加工を施したセミドライ、お茶などに製品化したうえ、パッケージなどを一新して販売に繋げることで、地域の活性化と雇用創出、さらには観光誘致を図る。

〔事業目標〕

- ① イチジクの実やお茶が販売できるようになる。現在販売中の唐辛子の売上と合わせ年間600万円を目指す。
- ② 畑の農産物の管理や商品づくりで雇用を目指す。
- ③ 販売し、利益を上げ、場所を長く維持することができる。



丸の内で行われたイベント後の販売会



新パッケージでスーパーマーケット・トレードショーに出展

助成事業の成果

イチジクや唐辛子のパッケージを2月までに作り終え、幕張メッセでのスーパーマーケットショーに参加したほか、お茶の専門店や百貨店など15店舗からも声がかかったが、受入態勢が不十分で回答が保留の状態になっている。

7月に行われた宮城県絶品創出プロジェクトに応募し、選考会の末、6品目の内の1品に選出された。また、食材を提供しているレストランが2店舗から4店舗に増え、コラボ商品も4品目、そして常設できる所も増えた。

助成事業の今後の展望・課題

イチジクの木を増やすときに女川＝イチジクの里になればと思っていたが、そのことが少しずつ実現しており、災害公営住宅2か所よりイチジクの木を植えたいという申し出が出てきている。

製品については、イチジクのお茶が3月より生活クラブのウェブサイト上にて販売が開始される予定である。衛生面や、設備などがまだまだ不完全であり、今後の投資や学びも必要だが、たくさんの方に手にとっていただける日も近いと思われる。

参加者・利用者の声

「お試しで飲んでみませんか？」といただいたのがいちじく茶との出会いでした。「うわーカワイイ！」と思い、思わず手に取りました。私は生理痛がひどく夏場でも飲み物はほとんどホット。口にするものには常に注意を払っているため正直いちじく茶もドキドキでした。しかし、クセがなく飲みやすい！そして何より体に合ったのか生理痛を和らげてくれるような気がして、今では欠かせないものとなりました。きっかけとなったパッケージの可愛らしさも、様々な年齢層の方に合うのでプレゼント用にととても助かっています。



特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク

日常生活の
再建事業

5



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

石巻市民ならびに石巻市内およびその周辺地域の団体が、互いにネットワークを構築し、雇用の創出、その他の支援活動を行い、石巻市の復興に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・ママ・子ども支援事業
- ・仮設住宅および復興住宅でのコミュニティ形成支援事業
- ・女性の活躍推進事業
- ・石巻に恋しちゃった事業
- ・復興コーディネート事業



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

石巻圏域の子育て環境改善のための プログラム開催事業

〔事業内容〕

石巻圏域で、子育て中の母親らの孤立を防ぎ、ストレスを低減するための親育てプログラム(NP)を開催する。今回は過去の参加者へのインタビューやファシリテーターへのフォローアップ、男性向けのプログラムの初開催も行い、それらを報告書にまとめて発信することで、プログラムの検証および今後の改善と継続開催への仕組みづくりに繋げる。

〔事業目標〕

- ① NPプログラムの参加者(30名)
- ② 男性向けNPプログラムの開催(2回、参加人数12名)
- ③ 当活動の報告会の参加者(30名)



今年度初開催の父親向けプログラムの様子



NPプログラムの様子

参加者・利用者の声

参加者の皆さんやファシリテーターがじっくり話を聞いてくれ、秘密厳守という皆で決めたルールがあったので、安心して話をすることができました。また、子どもと離れて話せる環境が良かったです。託児の先生方の対応も頼もしく、託児を利用することで子どもの成長を見ることができたのも大きかったです。(石巻市在住/2児の母)

助成事業の成果

1年間で36名の、地域の子育て中の母親たちにNPプログラムに参加してもらうことができ、母親同士の繋がりを作ることができた。また活動報告会には、市の生涯学習課からも参加があり、今後の行政との協働に繋がる一歩になった。さらに今回、事業の報告書(冊子)を作成、配布することで、子育て中の母親たちの悩みや抱える課題について、地域に知ってもらうきっかけを作ることができたと同時に、それらに対するNPプログラムの有効性について、理解を広げることができた。また今年度、父親向けプログラムを初めて開催したが、悩みを具体的に話せるほど、子どもと接する機会を持っていない父親が多いということが分かった。

助成事業の今後の展望・課題

当プログラムは子育ての悩みを抱える母親を対象に開催しているが、プログラムに参加できる母親は、プログラムの情報を受け取ることができていたり、プログラムに参加する積極性を持っているだけ、まだ健康的であると捉えることもできる。そのため、より悩みが深いと思われる、プログラムに参加できていない、閉じこもりがちな母親たちへのアプローチ方法について、改めて検討が必要である。

また、参加者からの口コミもあり、多くの母親たちからプログラム開催へのニーズが上がっている。当団体としては、今後の開催継続に向け、行政その他との連携について、引き続き模索していく。

一般社団法人 こころスマイルプロジェクト

日常生活の
再建事業

6



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

東日本大震災で心に傷を負い、支援からこぼれ落ちた子どもたちをサポートすることを目的に設立した。

主な活動

- ・震災で家族を亡くした子どもたちの心のケア
- ・震災を起因とする不登校児童の心のケアからの復学支援
- ・子どものグリーフケアプログラム実施
- ・子どもを亡くした母の会の運営(ピア・カウンセリング)
- ・被災小中学校を通じた子どもの支援(駄菓子屋教室実施)



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

震災で心に傷を負った子どもと保護者への心のケア

〔事業内容〕

震災で家族を亡くした子どもたちや、震災のトラウマを抱える子どもたちを対象に、アートや遊びを通じて「悲しみ・怒り・寂しさ・不安」など、言語化できない心の声を無理なく表出させることで、傷ついた心を和らげ、穏やかな心の状態を取り戻し、学校や社会生活に適応できる心の安定をサポートする。また、子どもの心のケアには保護者の心の安定が重要であるため、保護者ケアも並行して実施する。

〔事業目標〕

- ① 子ども同士の触れ合いを通じ、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感を高める。
- ② 保護者が日常で抱えるストレスを軽減し、精神面の安定を図り、より良い親子関係・家庭環境を築くことで、子どもの心の安定を図る。
- ③ 連続不登校から復学した子どもの不登校再発を防止する。



子どもが得意なことを教える「子ども教室」



アートセラピー（言語化できない感情を表出させる）

参加者・利用者の声

震災から5年が経った頃、子どもの問題行動や不眠が始まり悩んでいた時、同じ遺族からこころスマイルを紹介されました。親子でアートセラピーを行ってから、子どもの情緒不安や問題行動が収まり、学校でも明るくなりました。自分の子どもは大丈夫だろうと思いついており、子どもの苦しみに気付いてあげるのに5年以上もかかってしまいました。こころスマイルは、子どもも親も何でも相談できて安心できる場所です。

(小3・中3の母親)

助成事業の成果

週4日の個別サポート(年間204日／延べ利用者数320名)、金曜子ども広場(年間47日／延べ利用者数303名)、月例イベント(延べ参加者数181名)を実施した。

- ① 子ども広場の小グループ活動を通じ、情緒不安定や不登校の子どもたちがコミュニケーション能力を高め、学校でも良好な友人関係が築けるようになった。
- ② 毎月個別面談を実施し、子育ての悩みや家庭の問題について相談に乗った。また電話相談は24時間体制で対応し、ストレスを溜め込むことなく早い段階で解消させ、子どもへ影響が及ばぬよう努めた。(年間相談数550件)
- ③ 復学した不登校生徒10名中、9名が学校生活に適応できている。定期訪問の見守りの他、SNSによるサポートを行ったことで、復学後の不安やトラブルに即座に対応でき再発防止に繋がった。

助成事業の今後の展望・課題

- ① 震災の影響なしと判断されていた子どもたちが中学入学後、不登校や自傷行為に至るケースが増えている。子どもが抱える課題や心の状態を見極め、一人ひとりの成長に合わせた心のケアと見守りを行い、子どもの心の変化(SOS)を見逃さないようにする。
- ② 姉妹を亡くした子どもは、自分が生きていることを肯定できず情緒不安定になるケースが多い。また、亡くした子どもへの思いが強く、語り部や防災啓発活動に熱心なあまり、生き残った子どもへ十分な愛情を注げずにいる母親もいる。子どもの不安に気付く、子どもに向き合えるようサポートを継続していく。
- ③ 親を亡くした子どもの中には、親が再婚し居場所を失いかけている子どももいる。当団体が「サードプレイス」として子どもたちを支えられるよう活動を継続していく。

特定非営利活動法人 夢みの里 青い鳥児童館

日常生活の
再建事業

7



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

障害のある人もそうでない人も共に地域で暮らせるよう、そしてそれがあたり前のこととして受け入れられる環境づくりと地域の高齢者を織り交ぜた子育て支援対策を講じながら、深く地域社会に寄与することを目的に設立した。



主な活動

- ・児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
- ・英語教育支援事業
- ・高齢者介護予防事業
- ・障害者の共同生活援助事業および障害者の生活向上に資する事業

助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

『地域共生の子育て』の基盤創りと『障害児の適切な療育環境整備と居場所創り』とその家族支援

〔事業内容〕

震災で大きく変化した家庭環境。増え続けるニーズに応え、「青い鳥児童館」は障害児の新規受入先として建設したが、十分な環境が整わないままのスタートとなった。今回の事業では、療育の環境を整えさらなるニーズに応えること、その環境や私たちの持つ人的資源を活かし、地域住民を巻き込み障害理解を促しながら、障害の有無に関わらず利用でき、地域で子育てできるネットワークの基盤づくりを目指す。

〔事業目標〕

- ① 職員を増員し、石巻・東松島市の受入ニーズに応える。また、その家族支援。日中一時支援の80%稼働率を目指し延べ2,448名の利用を可能とする。
- ② 療育、余暇活動の環境を整え適切な療育訓練の場を提供する。その環境を活かし地域活動の場を広げる。
- ③ 地域に向けたイベントを開催する。併せて障害理解の啓発活動をしていく。



夏祭りの様子

参加者・利用者の声

- 静かに聞かなければならない読み聞かせ会ではなく、子どもが何をしても臨機応変に対応してくれるので安心できた。弟も一緒に遊べて満足そう。また来たいと思います。(絵本の読み聞かせ会／20代 母)
- 悩んでいたことを相談できてよかった。(座談会／母)
- トランポリン好き。プールもっと入りたい。(利用児童)
- 何をしている施設か気にかかっていましたが、この機会に知ることができました。(50代 地域住民)

助成事業の成果

- ・日中一時預かりで受け入れていた未就学児への支援提供が認められ、県の補助を受けて、石巻、東松島地区の児童を対象にした新規事業所を立ち上げることが決定し、さらなるニーズに応えていけるようになった。
- ・療育・訓練環境が整い、発達の段階に合わせたサービス提供ができるようになった。
- ・地域との交流が広がり、職員の意識がより地域共生に向けたものに变化した。
- ・子育て世代に対し、人的資源を活かした多方面からのアドバイスができた。
- ・地域の幼児に対し、エプロンシアター・パネルシアター・絵本など専門技術を活かした提供ができた。

助成事業の今後の展望・課題

地域共生を目指す当事業所は、引き続き絵本の読み聞かせ会やイベントを開催し、地域交流を深めるとともに、自分たちも積極的に地域活動に参加し障害理解を促す。同時に障害の有無に関わらず地域の「子育て世代」を人的資源を活かしサポートする。そのためには、どのように発信していくか、貢献していくかについて、地域のニーズを読み取りながら継続していく。利用児童、家族に対しては、サービスの質を落とさず、助成期間に蓄えた力を還元できるよう支援する。



団体紹介

所在地 福島県二本松市

団体の設立目的

平成17年に東和町が二本松市と合併したことを契機に、農業を中心にしながら特産品の製造・販売や都市圏との交流、新規就農者などの人材育成を行い、住民福祉と健康増進を図り、住民主体の地域活性化を行っていくことを目的として設立した。

主な活動

- ・道の駅ふくしま東和の運営
- ・特産品の製造・販売
- ・都市圏との交流事業
- ・新規就農者の支援など人材育成
- ・住民向け健康支援事業



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

二本松市東和地域の桑畑復活プロジェクト ～震災後の六次化推進の再構築～

〔事業内容〕

原発事故の影響により、桑の葉を使用した商品は風評被害が根強く、震災前2010年の半分ほどにとどまっております(2016年10月時点)、いまだ売上再建の途上である。桑生産農家の高齢化も著しく、2016年現在で6割が70歳を超えている。桑畑を復活させて、震災前の営みを取り戻していくため、販路を広げ売上を伸ばせる商品開発(六次産業化の再構築)を行う。

〔事業目標〕

- ① 新商品の開発数→12点
- ② 売上額の回復
- ③ 桑の葉買入量の増大→15 t



東和に広がる桑畑



商品開発でできたロゴマーク

助成事業の成果

商品開発を行っていくうえでは、以下の2点が大きなポイントであった。

- ・「東和の桑の在り方」をどう表現していくか?
- ・市場調査の結果を、どのように商品開発とデザインに活かしていくか?

新商品の特徴は下記のとおりである。

- ① 東和の桑の在り方を、「東和の手摘み桑茶」というネーミングとデザインで表現したこと
- ② 12種類のフレーバーティーを展開したこと
- ③ ティーバッグタイプにしたこと

この3つの要素で新規ニーズ・顧客へアプローチできる桑茶商品ができ上がった。
[「お茶を飲んでリラックスした時間を楽しみたい」というニーズ、若い女性向け、観光地などの高単価のお土産などでの販売]

ゆうきの里のアイデンティティの一つである桑に、ビジュアル的にも、ネーミング的にも新しい表現が加わったことで、団体の今後の展開にも活かしていくことができると思う。桑の生産者の高齢化もどんどん進んでいく中で、桑の新しい魅力を活かして地域をけん引できる事業に成長させていきたい。

助成事業の今後の展望・課題

- ・商品の製造管理(製造予定管理、工程管理、資材や原料の管理、品質管理、商品の在庫管理)を適切に行っていく、出荷が円滑にいくような体制と状況を作り上げ、そしてそれを維持していく必要がある。(誰でも運営できる仕組みづくり)
- ・販売管理としては、自店舗や取引先を含め、どんな売り場でも販売しやすいPOPなどの販促ツールを提供していくことが大事になるため(売り場が楽をできる、接客をしなくても商品が売れていくような売り場の棚づくり)、今後も継続的な工夫が必要である。
- ・商品の特徵として、12種類のバリエーションがある。この特徴が活かしていくように「2～3点買いたくなるような」見せ方を提案していくことも今後の課題である(例えば、ギフトの提案など)。

参加者・利用者の声

武藤 長衛さん 常務理事

途中、外部関係者(商品のプロデューサー側)とのコミュニケーションがうまくとれていないと感じることがあった。コミュニケーションの回数(特に直接会う機会)、質ともに不十分であったことが事業運営では支障になったと感じた。結果的に、地域では思いつづことが難しい「新しい発想」を取り入れることになった。今後の商品の動きに期待していきたい。



団体紹介

所在地 福島県郡山市

団体の設立目的

東日本大震災において多大な被害を被った障がい者などが、この福島の地で平和で安心した生活が送れるよう、積極的かつ幅広く長期間にわたる支援活動を行い、明るく平和な福島を創造していくことを目的に設立した。

主な活動

- ・就労継続支援B型事業所
- ・復興支援事業



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

被災障がい者による協働の仕事づくり事業

〔事業内容〕

帰還による新たな課題を抱えた被災障がい者と彼らを支える福祉事業所が、希望を持って日常生活を送れるよう地域の絆を活かした仕事を作るとともに、企業等から支援を得ながら仕事を軌道に乗せていく。また、同じ境遇の障がい者同士が支え合うことで孤立を防ぎ、自らの自立をも加速させていけるよう、震災後に生まれたネットワークを成長させる。

〔事業目標〕

- ① 企業の技術支援を受けながら地域の絆を活かし新商品の立ち上げ、販売を行う。
- ② 被災障がい者や彼らを支える福祉事業所の孤立の防止や生きがいづくりを行うため、講師によるニーズ調査を行い、調査結果に基づく勉強会や交流会を年6回実施する。
- ③ 福島の障がい者支援に関心のある企業等と現地をつなぐため、専門家の力を借りて首都圏での企業訪問(4回以上)、意見交換会(1回)や企業内セミナー(3回以上)、視察の受け入れ(2回)を実施する。

助成事業の成果

- ① 企業の協力を受けながら2つの新商品「縁起菓子ふくふく」、「マルニートバック」を立ち上げることができ利用者の新しい仕事ができた。
- ② 被災障がい者や彼らを支える福祉事業所の孤立の防止や生きがいづくりを行うため、講師によるニーズ調査に基づく勉強会や交流会を19回実施し、13福祉事業所のネットワークがさらに強化された。
- ③ 福島の障がい者支援に関心のある企業等と現地をつなぐため、専門家の力を借りて首都圏での企業訪問・セミナー・視察合計31回実施、また支援者との意見交換会を1回実施した。そのことにより、震災復興の風化を防ぐ一助とすることができた。



支援者との意見交換会(けやきの木の集い)



新しいお菓子づくりを協働で行う様子

参加者・利用者の声

ふくふくのお菓子づくりを担当する大淵です。私はお菓子職人になるのが夢でした。ふくふくは4種類のお菓子の詰め合わせなので4種類のお菓子が作れるようになりました。どのお菓子も美味しいので、たくさんの人に食べてほしいと思います。



助成事業の今後の展望・課題

福島では帰還政策が推し進められている。しかし、故郷に帰っても利用できる病院や福祉事業がないために、故郷に帰ることができない障がい者も多い。仮設が終了し、復興住宅や地域に居を移した社会的に弱い立場の方々の抱える困難はますます多様化し、また、彼らの存在も見えにくくなっている。しんせいは、震災後、13の福祉事業所と協働で仕事づくりに力を入れてきたが、仕事だけではカバーできない課題が予想を上回るスピードで広がっている。震災復興への関心も薄れゆくなか、避難弱者の孤立を防ぐ打ち手はあるのだろうか。本事業で築いたネットワークを駆使し、企業×NGO／NPO×現地住民と力を合わせながら、これからも誰一人置き去りにしない福島を目指していきたい。



団体紹介

所在地 福島県いわき市

団体の設立目的

原発事故等の被曝者に対して被曝の影響を調べ、また放射線被曝をより低く抑えるために食品等の放射能汚染を測定する機器を市民自らの手で配備し、市民自ら測定する事業を行い、市民の命と健康を守ることを目的に設立した。



主な活動

- たらちね甲状腺検診プロジェクト(保険、医療または福祉の推進を図る活動)
- セシウム、ストロンチウム90、トリチウムの測定事業(環境の保全を図る活動)
- 「沖縄・球美の里」子ども保養プロジェクトへの送り出しやその他保養相談事業(子どもの健全育成を図る活動)
- 放射能測定結果の一般公開と専門家による講演会事業(消費者の保護を図る活動)
- 測定技術の公開、論文発表(科学技術の振興を図る事業)

助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

「たらちね検診センター」開設プロジェクト

〔事業内容〕

2013年から行ってきた「たらちね甲状腺検診プロジェクト」を発展させ、「たらちね検診センター」(正式名称 たらちねクリニック)を開設する事業である。東日本大震災から6年が過ぎ、県外避難から県内に戻る選択をする家庭もあり、子どもの健康を「予防原則」に基づき、被曝の影響の観点から見守る医療機関を必要としている母親たちのニーズに応える内容を提供する。

〔事業目標〕

- ① 被曝に関わる診療科の医師の協力体制の整備
- ② 各専門医療機関との連携のためのネットワークづくり、福島の子もたちがより良い医療を受けられるための基礎づくり、小児科、循環器科、精神科等
- ③ 多くの人々に利用してもらえる診療所づくり



甲状腺検診の様子



たらちねクリニック受付

参加者・利用者の声

● ずっと不安だった気持ちを、先生や看護師さんに聞いてもらえて本当に良かった。
(甲状腺検診受診者の保護者)

● こんなに詳しく丁寧に、子どもの検査をしたことはなかった。先生から分かりやすく結果を聞いて安心した。(子ども検診受診者の保護者)

助成事業の成果

2017年5月に「たらちねクリニック」を開設、6月から保険診療を開始した。内科と小児科の他、全身放射能測定、甲状腺検診、血液検査、子どもに特化した「子どもドック」などの検診メニューも提供。

「子どもドック」に関しては全国の支援者からの寄付により、18歳以下は無料とした。『医師による診察・身体測定・体内の放射能測定(全身放射能測定、尿中セシウム測定)・心電図・血液検査・尿一般検査・甲状腺検診・こころのケア』を検診項目とし、心身のサポート体制を構築した。(2017年9月末で91名利用)

来院数は2017年6月から9月末までで18歳以下146名、19歳以上143名と乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方が来院された。

助成事業の今後の展望・課題

原発事故から6年が過ぎ、福島県内では甲状腺ガンだけでなく、子どもの体調不良を危惧する声が目立ってきている。現段階で被曝と健康被害の因果関係を判断する時期ではないと考えられるが、その心配は常に存在し、多くの母親たちは不安な日々を過ごしている。

たらちねクリニック開設にあたり、被曝や健康に対する不安を受け止め、医療という立場から心身のサポート体制を構築することにより、多くの母親たちがより安心して子育てができる環境に身を置くことができる。心身の健康の問題は多岐に渡る課題であることから、地域のニーズとの適合性や連携医療機関との関係の構築など、想定される課題をクリアできるよう見通しを立てた運営を心掛ける。



団体紹介

所在地 岩手県盛岡市

団体の設立目的

子どもと社会がつながり、自身の生き方や仕事を成長段階毎に考えるキャリア教育支援事業を行うことで、個々が自立した社会の実現に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・岩手県内の小中高校でのキャリア教育支援事業
- ・子どもの学びを応援する大人向け講座
- ・高校生・大学生インターンの受け入れ



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

小中高生と大人が学びあう地域の絆プロジェクト

〔事業内容〕

沿岸部の小中高の授業や居場所で、グループに分かれた児童生徒が、大人と学び合う。多様な生き方価値観を持つ複数の大人から岩手で暮らす思いを聴き、小中高生が自らの将来を考える「未来パスポート」プログラムと、復興に向けて中高生と大人がそれぞれの思いや考えを語り合う「かだる」プログラムを、大学生が核となり、5～6校(箇所)で実施する。

〔事業目標〕

- ① 沿岸部の小中高校5校～6校(または箇所)、対象児童生徒延べ600名～1,000名にキャリア教育支援プログラム「未来パスポート」または「かだる」を実施する。
- ② キャリア教育支援プログラム「未来パスポート」「かだる」や講座「模擬未来パスポート」「おとなのホームルーム(放課後)」に県内外の学生、教員、大人延べ220名が参加する。
- ③ 学生ボランティアを10名程度育成し、多くの学生が参加しやすくなるマニュアルを作成する。将来的には事業推進を担う学生ボランティアの育成に向け、大学と連携する仕組みを構築し、プログラムを必要とする全ての学校で実施できる体制を目指す。



山田高校「未来パスポート」プログラムの様子



船越小学校「わくわくタイムマシーン」プログラムの様子

助成事業の成果

山田高校、大槌高校、宮古北高校、船越小学校をはじめとした沿岸部の小中高校や中高生の居場所「ゾンタハウス」などにおいて、460名の小中高生を対象に、キャリア教育支援プログラムを実施した。プログラムや講座には、大人・学生延べ194名が参加し、小中高生と自分の人生や地域の未来について語り合った。さらに教員86名の参加を得て、プログラムの事前事後学習による効果が高まった。また、初めて参加する学生が安心して活動できる「司会進行マニュアル」「サポートマニュアル」などが整備され、多くの学生が参加して、子どもと大人の学び合いによる地域の絆の形成に寄与することができた。

助成事業の今後の展望・課題

今回初めて山田町の高校と小学校でプログラムを実施するなかで、町内全ての中学生へのキャリア教育支援の必要性を痛感した。小中高生支援に熱い想いを抱く地元のキーパーソンたちや先生方、活動を支える学生たちとつながることができたので、今後はそれぞれの立場の情報や意見交換ができる機会が必要になると感じた。大学との連携も始まったばかりなので、岩手県の復興人材育成のために重要な小中高生のキャリア教育支援を自立して、活動を継続していくための体制構築を目指したい。

参加者・利用者の声

田老チセさん、中村チセさん(プログラム講師・山田町)

初めて会ったけど、気さくに聞いてくれて良かったです。とても素直でどの児童も良く発言して私も楽しかったし、いっぱい勉強になりました。昔話にも耳を傾けて聴いてくれて嬉しかったです。





団体紹介

所在地 岩手県盛岡市

団体の設立目的

岩手県内におけるNPO活動を多面的に支援するとともにNPO相互のネットワーク化、NPOと行政・企業との連携を促進することで、一人ひとりが生きる喜びを実感できる豊かな社会の実現に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・市民活動、地域コミュニティ活動支援
- ・3R推進活動(県事業受託：エコショップいわて認定事務事業)
- ・相談業務(中間支援事業)



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

住民共助による地域支え合い活動推進事業

〔事業内容〕

既存コミュニティ住民と公営住宅居住者の交流を図るとともに、持続可能なコミュニティ構築を目指して、住民向けワークショップや意識啓発講演会、先進事例研修などを行いながら、将来の地域ビジョンの作成を行う。

- ・地域ビジョン策定と課題掘り起こしに向けたワークショップ
- ・公営住宅集会施設の使い方についての話し合い
- ・住民交流促進イベント
- ・健康づくり教室

〔事業目標〕

- ① 高齢者を主とする引きこもり抑制と交流イベントへの積極的な参加
- ② 軽運動を通じた基礎体力の維持と、栄養バランスを考慮した簡単な料理を通しての人と人との会話を楽しむ時間の創出
- ③ 地域コミュニティの再構築(支援先がコミュニティの運営やまちづくりに関するノウハウを習得し、自発的な課題解決策を検討し、実行すること



情報交換会の様子(崎山地区)



健康づくり教室の様子(大船渡地区)

参加者・利用者の声

- ほかの自治会も同じ悩みがあると知った。(宮古)
- 役員業務が多く、特定の人への負担を減らしたい。(宮古)
- 集会所の管理に時間を取られて外出するのにも気を使っていたが、一緒に対応するグループ体制になることで心が軽くなった。(大船渡)
- 家で簡単にできる運動は良かった。料理も缶詰を活用するなど楽だった。(宮古：健康)
- いつも一人だが、一緒に料理したり食べたりするのは楽しい。(大船渡：健康)

助成事業の成果

〔宮古市崎山地区〕

地区内の自治会が一堂に会し、それぞれの困りごとを話すことで解決策のヒントや連携について情報共有することができた。

〔大船渡市大船渡地区〕

集会所の世話人のサポーターを数人確保し、グループ体制ができたほか、公営住宅周辺住民へのイベント周知により、住民交流が図られた。また、季節行事を通じて、集会所の利用者が増えるなど、広く開放された集会所運営ができた。

助成事業の今後の展望・課題

〔宮古市崎山地区〕

地域の課題解決や組織づくりに取り組む際、事前のヒアリング・現状把握を徹底しておかなければならなかった。今回、リーダー的存在が数名いたこと、それぞれの意見交換が少なかったことなどが、事業中断に影響したと思われる。今後は、仕切り直すのであれば、まず地域の意思確認から始める必要がある。

〔大船渡市大船渡地区〕

公営住宅居住者は高齢者ばかりであることから、集会所の管理をグループ体制にしてもその負担感は感じられている。周辺地域住民には、もう少し若手もいることから今後は巻き込んでいく工夫をしたい。

集会所利用について料金体系を整えたことから、(少額ではあるが)主催事業以外の収入確保が見込める。

季節行事を中心に定期的な主催イベントも継続していくため、高齢者支援の民間助成金事業等への申請も検討していく。



団体紹介

所在地 岩手県宮古市

団体の設立目的

江戸時代初期に遡る黒森神楽の舞を伝承し、貴重な習俗である廻村巡行を守り続けることにより、陸中沿岸における歴史・民俗文化の継承・発展に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・ 正月から3月にかけて陸中沿岸の集落を訪れる廻村巡行
- ・ 黒森神社例大祭など春から秋までの市内神社祭礼での神楽舞の奉納
- ・ 自主事業である黒森神楽舞初め・舞納め、国指定10周年記念公演の実施
- ・ 震災復興や地域活性化に係る行事・イベントなどへの参加



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

黒森神楽文化価値再生発信事業

〔事業内容〕

廻村巡行の際、民家で神楽を行うことが黒森神楽の最も重要な特徴である。また、巡行の範囲は江戸時代から変わらず、広域性を保持して活動が行われている。震災被害や過疎化により地域コミュニティが危機的状況にあるなか、神楽公演を地域の人々が集まり交流する機会へとつなげていきたい。神楽の最も重要な道具である神楽面や獅子頭について、本来の様式で製作、使用することにより黒森神楽の文化的価値を再生し、地域のつながりや活性化に貢献する。

〔事業目標〕

- ① 2017年の南廻り巡行で6か所以上の地域を訪れる。
- ② 2017年南廻り巡行で、失われつつある民家での神楽を3か所で実施する。
- ③ 神楽公演により鑑賞者と交流しながら神楽への理解を深めてもらう。延べ60演目以上の披露を目標とする。



民家の神楽宿の様子(平成29年1月)



国指定10周年記念公演(平成28年11月)

参加者・利用者の声

- 仮設住宅から神楽を見に来ました。よかった、すごくよかった。あと10年長生きして、また見たいです。(国指定10周年記念公演の来場者)
- 黒森神楽は、私たちにとって、地域にとっての宝です。懐かしいだけでなく、またこれで一年無事に過ごせるという安心感と活力になります。自分ができる限り神楽宿を続けるつもりです。(神楽宿のご主人)

助成事業の成果

2016年11月に国重要無形民俗文化財指定10周年記念公演を開催し、500名もの鑑賞者に11演目を披露、好評であった。翌年1月からの南廻り巡行も13地区を数え、神楽宿も今年は減少することなく神楽を受け入れてもらえ、事業目標を達成することができた。支援者らによって伝統的な地域外である盛岡・北上・遠野でも巡行公演を開催することができ、充実した活動を行えた。3月には「東日本大震災復興フォーラムin東京」で恵比寿舞を披露、8月には「三陸海の盆in宮古」、「三陸国際芸術祭2017」にも出演し、震災を風化させない取組みや復興祈念行事へも積極的に参加し、被災地を代表する芸能として役割を果たした。

助成事業の今後の展望・課題

廻村巡行の昔からの形態である、民家の座敷で神楽を行うことが最重要課題である。生活様式の変化や地域の過疎化により、神楽を受け入れてくれる家や地域が減少することは間違いないだろう。神楽愛好者や支援者らによって盛岡など伝統的な地域外でも巡行公演が行われたが、こうしたケースを継続して行えるかも課題である。

時代の変化に対応しながら、確実に神楽舞を継承し黒森神楽の魅力をしっかり表現することにより、支援者を増加させていきたい。今後も震災を風化させないよう地域内外での活動を継続しながら、神楽鑑賞の機会を地域のコミュニティ再生につなげていきたい。

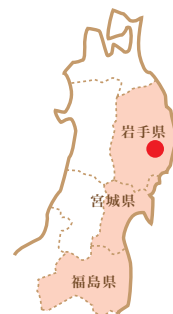


団体紹介

所在地 岩手県遠野市

団体の設立目的

自然災害時の被災者および支援に携わる関係者に対して復興支援に関する事業を行い、被災者の生活再建ならびに被災地の経済復興、さらには今後起き得る自然災害時に迅速に対応できるネットワーク構築、マニュアル策定に寄与することを目的に設立した。



主な活動

- ・まごころ就労支援センター事業（被災障がい者の就労・自立支援）
- ・まごころサンタ基金事業（被災受験生への奨学金の給付を通じた就学支援）
- ・まごころの郷事業（ソーシャル農園でのコミュニティづくり・なりわいづくり事業）

助成事業

（助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日）

被災地のコミュニティ再生となりわいづくり事業

〔事業内容〕

岩手県被災地の復旧復興の進捗状況は、個人格差が顕著になっている。復旧復興から取り残されかねない被災地域および被災地域以外の仮設住宅等に居住する被災者（特に社会的弱者）を対象に交流会イベントを行い、生きがいつくりや地域コミュニティ・文化の再生を図ることで、「心の復興」をも伴った支援を行う。

〔事業目標〕

- ① 地域コミュニティの再建
- ② 地域文化の再生
- ③ なりわいつくり



地元産品を活用した特産品づくり研修会



クレソン栽培に意欲を燃やす主婦グループ

助成事業の成果

本事業には事業期間を通じて、仮設住宅住民を中心とした被災者と地域住民約3,500名の参加があった。お茶っこ、音楽会、自然教室、木工など、特にハーブ農園で多くの人と協働した作物の栽培といった各プログラムはおおむね好評であった。医師や専門家による生活不活発病の予防検診を受けてもらったことについては、心のみならず体の健康への貢献もできたものと確信している。さらに、クレソン栽培による特産物づくりに取り組むグループも誕生するなど、地元食材に係る講習会等を通して「なりわい」の萌芽を育てられつつあるのではないかと期待している。

助成事業の今後の展望・課題

今年は夏場の天候不順が影響してか、昨年度と比較して交流会への参加を控えた可能性が考えられる。主なプログラムを「大槌たすけあいセンター」ならびに「はーぶの郷」で開催した。会場まで来る交通手段が悪かったことは否めない。しかし、木工など毛色の違ったプログラムを織り込むことにより小・中学生の参加が増え、カラオケや農作業など人気のプログラムを充実させたことで高齢者の参加も増えた。今後とも、本事業で得た知見・経験を活かして被災地域住民が元気になる、明日への希望を見出せるよう、様々なきっかけづくりを通して心の復興につなげたい。

参加者・利用者の声

佐々木さん 小槌仮設団地

仮設住宅での暮らしが6年7か月にもなると息苦しさを感じる。大槌たすけあいセンターを中心に様々なイベントを開催してくれるおかげで、近所の方々と一緒に参加している。ここに来ると野菜づくりなどができるほか、遠くの仮設住宅の知人、友人と交流ができ大変楽しいひと時を過ごすことができる。



一般社団法人 前浜おらほのとおき

地域コミュニティ・
文化の再生事業

15



団体紹介

所在地 宮城県気仙沼市

団体の設立目的

地域の自然や伝統文化の再認知など地元学的な活動を通じて、便利過ぎる生活の浸透によって失われてきた地域の紐帯を再生し、市場や行政依存から距離を置きつつ、内発性の主導による地域活性化を図ることを目的に設立した。

主な活動

- ・「前浜・おらほのとおき」文化祭の定期開催(毎年3月)
- ・前浜・椿の森プロジェクト
- ・漁師たちのESD講座



助成事業

(助成期間: 2016年10月1日~2017年9月30日)

生態系適応型コミュニティ開発と交流人口の拡大

〔事業内容〕

伝統文化と自然環境に順応した復興・地域再生とともに、防災減災を目指す。その際、地元の海浜文化や海浜植生を調査・学習し、その自然資源や伝統知を活用した防潮林・防風林・魚付林の再生、椿油搾りの伝統技法の継承も含む椿の森の造成を行う。さらに、育苗や植樹等の過程に多様な方々との協働を織り込み、過疎や高齢化、防災などそれぞれの地域課題を共有しながら架橋型社会関係資本の促進、交流人口増加、持続可能な高齢社会を目指していく。

〔事業目標〕

- ① 前浜、新宿戸山団地、本庄高等学院などでの播種ポット苗化1万本を目標とする。
- ② 植樹面積150坪を目標とする。
- ③ 前浜にやってくる交流人口300名増を目指す(架橋型社会関係資本の形成、健康寿命の増進)。



植樹作業をする東京の学生たち



山形県最上町黒澤での植樹交流会

参加者・利用者の声

石原 奈津子さん 目白大学社会学部 4年

前浜と関わり始めて3年目になりますが、私はこの活動で特に「繋がり」について学びました。頻繁に顔を合わせることはできませんが、だからこそ会える1回をととても大切にしています。こんなに自分を受け入れてもらえる前浜を第2の故郷として、これからも関わり続けていきたいと思っています。



助成事業の成果

地域間交流の促進によって、関東・山形・北海道の方々との連携が深まった。同時に、そうした他地域で前浜住民が被災経験や復興活動について発言する貴重な経験ともなった。その過程で得られた自分たちの活動の重要性の認知が、再帰的に地域での市民活動に好循環をもたらしている面もある。そうした気づきは、生態系や自然環境に関する講座や実習による環境問題の意識化や、単純なグレイインフラ依存に対する疑問や反省にも繋がっている。諸活動の過程での学生と高齢者の交流(学習)は、高齢化社会の在り方、社会参加と個人の生きがいを考える上で一つの重要なポイントであると、少しずつ認識されてきていると感じる。

助成事業の今後の展望・課題

生態系に順応した防災減災などそのサービスの向上を図りつつ、コミュニティの持続可能性を探る試みはまだ始まったばかりである。今後は、住居の土台が残る津波被災エリアの上に魚付林の機能も備えた椿の森を作ることを目指したい。それは、海と生きる生活世界のデザインであると同時に、震災の記憶の風化を防ぎ語り継ぐためにも必要な作業であると思う。

こうした理念を大学生などと共有し、共に活動して来たが、より内発的な一般住民や地元小中学生の積極的な参加がなければ、その理念は実現するものではない。今後は、地元の方々が親子で気軽に参加できる仕組みづくりに知恵を絞りたい。



団体紹介

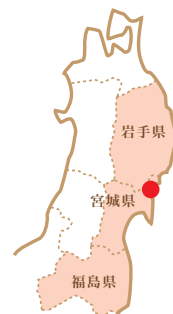
所在地 宮城県気仙沼市

団体の設立目的

交流人口の増大による地域の活性化を図り、観光を水産業と並ぶ基幹産業として振興することを目的に設立した。

主な活動

- ・観光客の誘致と接遇の指導改善
- ・観光資源の調査・研究・保護ならびに開発
- ・観光施設の整備・改善
- ・観光理念の普及
- ・観光従事者の資質向上



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

第30回気仙沼天旗まつり記念事業プロジェクト

〔事業内容〕

気仙沼の伝統行事として定着している、気仙沼天旗まつりが30回目の節目を迎えることから、これまでの経過を検証し、さらなる発展を期するため、天旗まつり記念誌の発行および映像製作(アーカイブ化)と、第30回気仙沼天旗まつり記念事業を行う。

〔事業目標〕

- ① 記念誌700冊とDVD300枚の発行
- ② イベント参加者(5,000名)



日の出風づくり教室開催!



気仙沼天旗まつりの様子

助成事業の成果

製作作業において、伝統ある気仙沼天旗まつりの歴史を関係者が再認識したことや、アーカイブ化を行うことで伝統ある地域文化を次世代の市民に継承する一助となった。

また、記念イベントの会場は、震災遺構として保存する高校の敷地内であり、風化が進む中、関係者はもとより、来場者へ震災の記憶を伝えていく機会となった。

助成事業の今後の展望・課題

震災の影響で、過去の写真収集に時間を要し、また、予定していた会場が復興事業の影響により使用が困難となり全ての準備が遅れ、来場者数に影響を及ぼした。

今後、復興事業の影響もあり、会場の選定が課題となるが、被災地におけるコミュニティの再生とともに、伝統ある地域文化を継続的に次世代に継承する。

参加者・利用者の声

- 子供の頃に遊んだ凧揚げを懐かしく感じました。(仙台市60代男性)
- 親子三代が笑顔で凧揚げを楽しみ貴重な時間を過ごしました。(市内30代女性)
- 昔の画像や映像を懐かしく観ることが出来ました。(市内70代男性)

.....

NPO石巻広域クリエイティブアートの会 ペンギンズアート工房

地域コミュニティ・
文化の再生事業

17



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

障がいを持つ人たちの芸術表現を支援するために、作品制作と展覧会を実施し、発信空間としてギャラリーの運営を続けながら、障がいがある人の本来の力が社会に役立つ仕組みづくりを目的に設立した。

主な活動

- 作品の制作活動を月に2回・ペンギンズ展覧会を年2回以上実施（病院ギャラリーや市民ギャラリーに展示）
- ペンギンズギャラリーを開館し、発信と交流のスペースとして活用（週土日の2日間）
- 交流会活動やアートイベントを開催（有識者やアーティストのワークショップ・ポストカード展実施）



助成事業

（助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日）

ペンギンズギャラリー（地域の人たちと障がいのある人たちの芸術作品の交流できる空間づくり）

〔事業内容〕

障がいのある人たちの芸術性の素晴らしさを発信できるように、テーマを決め作品展示を実施する。

また、学べる場所・楽しむ場所としての研修会やアートイベントを実施し、住民との交流を図る。障がいのある人たちが自分らしく楽しく生きがいの持てる場であり発信できる空間としてギャラリーを活用する。

〔事業目標〕

- ① 障がいのある人たちの芸術性を知らせる空間としてギャラリーを継続して運営する。
- ② 学べるイベントを実施し、芸術を通して市民と障がいのある人たちが垣根のない社会生活を共有できるようにする。
- ③ 宮城県や石巻市のアーティストと一緒に作品展示をすることで、障がいのある子どもたちが喜びと生きがいを持ち活動できる空間づくりを行う。



哲学カフェ



クリスマスコンサートの様子



制作風景

参加者・利用者の声

- このイベントに参加していなかったら、石巻市の脇道を歩くことは無かったでしょう。建物の隙間、側溝の中、フェンスに掛けられた落し物等発見。何か小学校の帰り道を思い出しました。所々にある震災で傷んだ建物も、震災直後より雰囲気は柔らかくなっている感じがして、とてもいい時間となりました。（佐藤和さん 本こり業 60歳 「それでしかないもの・まち歩きイベント」に参加）
- ペンギンズギャラリーのイベントに毎回参加させて頂きましたが、とても心に残ったのが哲学カフェでした。普段使っているワードなのに「芸術とはなにか？」「救うの意味は？」を改めて考えると、とても難しく頭の中で整理するのが大変でした。その分心について残っています。（阿部望さん 鉄工所勤務 20歳 「哲学カフェ（芸術は世界を救う）」に参加）

助成事業の成果

4つの事業（アートワークショップ・季節のイベント・ポストカード展・哲学カフェ）を柱にして取り組んだ。1年間の成果として大きかったことは事業をきっかけにしてギャラリーをいろんな人に知っていただけたこと。特に地元のアーティスト、地域の被災した方々との作品交流は大きな力となった。問い合わせも増え、平日の見学者もあった。牡鹿半島在住の方が荻浜小学校に展示したペンギンズ作品を見てくださり、立町のギャラリーまで来て下さった。「障がいがあっても（作品が）いいねえ」の言葉に感動すると共に、これからも発信や交流を続けていくためのエネルギーを頂いた。また、事業を通して、行政や他のNPOの方々との繋がりが増えた1年だった。大きなきっかけとなった信金の絆助成金に感謝している。

助成事業の今後の展望・課題

ギャラリーを開設してから12月で2年になる。だれでも気軽に立ち寄り、自然に障がいのある人のアートに親しめる空間を目指して活動してきたが、これからの展望としては、ギャラリーをさらに多様性のある空間にすることも必要だと感じる。駅前の商店街の中で、アートに関係する方々と連携しながら、ペンギンズの役割をさらに共に学べるコミュニティ空間として明確化したい。そのためには、行政との連携も必須だと感じる。ペンギンズは一度に多数参加ができる大きなイベントはできない。むしろ、被災した市民の心に寄り添いながら癒しながら「それでしかない」居場所づくりを一步一步進め広げたいと思う。



団体紹介

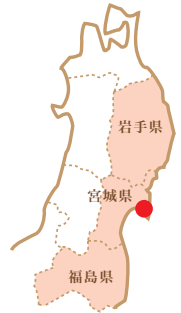
所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

東日本大震災で甚大な被害を受け内陸への移転を余儀なくされた石巻市大川地区の漁師らが、「住めないふるさと」の再生と交流人口の拡大、地域の暮らしの記憶の伝承を目的に設立した。

主な活動

- ・長面浦番屋を中心とする地域イベント
- ・「長面浦はまなすカフェ」の運営
- ・漁業体験・環境学習を中核とした交流事業
- ・地域内外とのネットワーク構築
- ・地域の「暮らしの記憶」伝承活動



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

石巻市大川地区住民による「ふるさとの記憶」再生事業

〔事業内容〕

石巻市大川地区の釜谷・間垣・長面・尾崎の4集落は津波により、災害危険区域(非可住)に指定された。20km内陸への集団移転を前に2016年度、住民ワークショップを開き、4集落の被災前の姿を500分の1模型に再現した。この模型を展示する建物を大川小学校近くに設置し、地域の「暮らしの記憶」を伝える活動を展開するとともに、地域内外の人々との対話を促し、新たなコミュニティづくりの原動力とすることを目的とする。

〔事業目標〕

- ①「記憶の街」模型復元ワークショップに延べ500名参加
- ②「記憶の場」セルフビルドワークショップに延べ300名参加
- ③3月までに「記憶の場」オープン。助成終了時まで延べ利用者2,000名



模型展示施設の設置場所を検討する住民



「ふるさとの記憶」模型展示施設前で竣工の記念撮影

参加者・利用者の声

阿部 良助さん 釜谷地区区長

被災前の大川地区の姿を模型にとどめ、多くの人に見ていただける場所ができ、大変ありがたいです。震災後、釜谷には人が集まる建物がありませんでした。地域のひとと模型を囲んで話し合ったり、見学の方に大川地区にたくさんの暮らしがあったことを伝えたり、「ふるさとの記憶」を未来に伝える場にしていきたいと思っています。



助成事業の成果

大川地区「記憶の街」模型復元プロジェクトは、2016年11月と2017年3月に各1週間の住民ワークショップを開き、延べ2,000名以上が参加した。住民の要望によって模型が当初想定約4倍の大きさとなり、制作に長い時間を要した。記録集、デジタルアーカイブも作成した。展示施設についても大川小学校の震災遺構化議論と時期が重なり着工が大幅に遅れたが、8月に約1週間の模型展を開き来場者約1,200名と意見交換し、設置の希望が強いことを確認した。建物は、模型の大きさや敷地条件を考慮して当初予定のトレーラーハウスからプレハブユニットハウスへと計画を変更し10月に竣工、11月19日にお披露目イベントを開催した。

助成事業の今後の展望・課題

この模型展示施設を、かつて住んでいた場所を訪ねる住民が立ち寄れる場とするほか、小学校を訪れる人に地域の暮らしや文化、震災の経験などを伝える場として運営する。すでに模型を囲み語り合うことで「大川音頭」などの地域活動が復活している。模型は石巻市が2019年度までに建設予定の大川小学校震災遺構管理棟に収蔵されることが内定したが、それまでの間、地域内外の人に開かれた場として運営し、よりよい震災伝承のあり方を検討すると同時に、住民が記憶を共有することによりコミュニティ再生や集団移転後の新たな街づくりの力としたい。

石巻復興踊りエンヤドットプロジェクト 実行委員会

地域コミュニティ・
文化の再生事業

19



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

甚大な被害から立ち上がり、心の復興を目指して躍動感あふれる独自の踊りを創作し、地域のお祭り等で踊ることによって住民の心を一つにし、石巻を「誇れるまち・魅力あるまち・住みよいまち」にすることを目的に設立した。

主な活動

- ・石巻を「誇れるまち・魅力あるまち・住みよいまち」にするための独自の踊りの開発
- ・踊りの披露ならびに普及活動



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

石巻復興踊りエンヤドットプロジェクト

〔事業内容〕

震災と津波で大きな被害を受けた石巻地域。仮設や復興住宅で生活をする方たちや子どもたちから湧き出る言葉や動作を集め、石巻ならではの踊りと楽曲を創作し、地元最大のお祭り「川開き祭り」や地域のイベントで披露する。普段は交わることのない人々の交流を活性化し、復興を推進する石巻市民に躍動感を与える。

〔事業目標〕

- ① 小・中学生50名、高校生・大学生など青少年30名、大人20名の計100名程度がダンスパフォーマンスに参加者することを目指す。
- ② 事業終了後にアンケートを実施して、参加満足度80%を目指す。
- ③ 中心的参画者が定期的に世代交代するとともに他団体との連携を深め、事業を継続していく土台を作る。



踊りの練習風景



レコーディングの様子

参加者・利用者の声

- 気軽に参加できる雰囲気が良かった！幅広い年齢の人と知り合える場をありがとうございます。（山脇さん 女性）
- 老若男女交わるのがよかった。次の機会があれば少なくとも1回は参加したい。（西さん 男性）
- もう少し練習できる機会があるとありがたい。（小野さん、内海さん 女性）

助成事業の成果

街頭でのインタビュー活動や作詞作曲ワークショップを通じて、自分たちが暮らす地域について新たな発見があった。すでに知っていたことでも改めて興味を深めるきっかけになった。

ワークショップや練習会を頻繁に開催したので、直接参加していない市民にも新聞やラジオ、口コミ経由で活動のことが浸透し、好意的な感想を頂戴することが多かった。

町内会単位で開催するお祭りに7回も呼んでいただき、復興踊りが石巻地域で浸透してきていることを実感できた。

海外からの交流団11名が川開き祭りに参加することになり、急遽、受入態勢を整えて地元メンバーと共に練習する機会を設けた。親しみやすい曲と踊りが新規参加者にとって受け入れやすいものになっていると実感できた。

助成事業の今後の展望・課題

小中学生の参加が思わしくない。告知をしっかりと行い、内容を楽しく学べるものにすれば確実な参加者確保に至ると考えていたが、予測通りには進まなかった。小中学生の休日の過ごし方は我々の想像を超えて多様化しており、事業に魅力を感じてはもらったが実際の参加には至らず残念だった。

活動を通じて育んだつながりを活かし、復興踊りの定着化につなげていく。

特定非営利活動法人 ささえ愛ふらっと

地域コミュニティ・
文化の再生事業

20



団体紹介

所在地 福島県桑折町

団体の設立目的

最後まで住み慣れた地域で過ごすため、一人ひとりが持てる力を出し合っ、お互いに支え合う地域づくりの推進を目的に設立した。

主な活動

- ・食事づくりに困っている高齢者や障害を持つ方などへの「配食サービス事業」
- ・ふれあいいきいきサロン等へ食事を支援する「サロン支援事業」
- ・介護者および就労女性支援事業
- ・誰でも気軽に立ち寄れる「ふれあいの居場所事業」
- ・多様な世代のボランティア活動を支援しコーディネートする事業



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

ふれあいの居場所設備充実事業

〔事業内容〕

「ふれあいの居場所」は誰でも気軽に利用し、会食や趣味活動等を通じ地域の人々と交流を深め、そこで自分ができる役割を担うことで生きがいや介護予防につながっていく。

居場所に必要のトイレを設置し利用者の利便性を図るとともに、原発事故の避難者支援や多様な世代の地域住民に向けたプログラムを展開するために必要な備品を収納する倉庫を整備し、事業のさらなる充実を図る。

〔事業目標〕

- ① 孤立しがちな高齢者、子育てに悩む若い世代、障がいを持ち引きこもりがちな方々が気軽に立ち寄り交流し、地域とつながり「助けて」と声をあげることができる場所にする。
- ② 会食を通じて食の楽しさを実感し、バランスの取れた手作りの食事をとることで偏った食生活を改善するきっかけを提供し、健康の維持につなげる。
- ③ 居場所で自分ができていることを見出し、人の役に立つことで生きがいを実感し介護予防につなげる。

助成事業の成果

居場所に必要不可欠なトイレの設置で、この場所でゆっくりと過ごすことが可能になった。また、視聴覚設備や収納場所の充実で介護予防教室や趣味活動も幅広く開催でき、参加者も増加している。「ここができて本当に良かった」という来所者の声が多く聞かれる。思いがけない出会いがあり、食事を一緒にすることで会話が弾む。知らない者同士が顔見知りになり「またここで会いましょう」と帰っていく姿が多くみられる。高齢になっても元気で地域の中で生活することはなかなか難しいが、この居場所が地域の方々へ様々な元気を提供できる憩いの場になってきていると実感している。

助成事業の今後の展望・課題

現在、水曜日と金曜日の週2回の開所であるが、“ひなたぼっこ”のスペースを有効利用するために、ボランティアによる開催日を増やしていくことを検討している。

異年代の交流、自主サロン、子育て世代への周知など折角の施設を活かす展開を検討していく。居場所を提供する側と利用者の枠を超えて、関わる人すべてが運営者の視点で「持てる力を出し合っ、支え合う」という当NPOの基本理念を推進していきたい。

参加者・利用者の声

- 「ひなたぼっこ」のランチを食べることで偏りがちな栄養が改善し元気になりました。
- 介護予防教室に参加することで、生活にリズムができ、筋力もアップして坂道を歩くのが楽になりました。ここに来てみんなに会っておしゃべりするのが楽しみです。
- ここに来て長く会うことのなかった同級生や知り合いに再会することができ、話が弾んで楽しみが増えました。
- 歌声サロンに参加しています。みんなと声を合わせ懐かしい歌を歌うと心地よく疲れます。終了後のお茶と漬物も楽しみです。



介護予防体操の様子



居場所「ひなたぼっこ」



団体紹介

所在地 福島県いわき市

団体の設立目的

会員相互の信頼のもとに会員の資質向上と人間力の啓発に努め、世界の平和と繁栄に寄与し、地域社会と国家の健全な発展を図ることを目的に設立した。

主な活動

- ・政治・経済・社会および文化等に関する調査研究ならびにその向上に資する事業
- ・児童または青少年の健全な育成を目的とする事業
- ・市政の健全な運営の確保に資することを目的とする事業
- ・地域社会の健全な発展を目的とする事業
- ・障害者、生活困窮者または事故、災害もしくは犯罪の被害者の支援を目的とする事業



助成事業

(助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

第5回いわき「光のさくらまつり」

〔事業内容〕

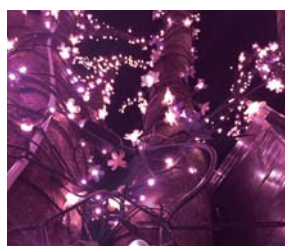
福島県浜通りのシンボルであり、震災・原発事故により見るのが難しくなった双葉郡富岡町の「夜の森さくら並木」を、いわき駅前大通りの並木にさくら色のLEDイルミネーションを取り付けることで再現し、東日本大震災とそれに伴う原子力災害の風化および関心の希薄化を防ぎ、いわき市民と双葉郡から避難されている方々が、いわき市に共に暮らす同朋である意識を醸成することで、共に浜通りの復興に取り組んでいくという意識を根付かせていく。

〔事業目標〕

- ① 多くのいわき市民と避難者がお互いの復興が必要であると理解する。
- ② 双葉郡からの避難者が、いわき市においてもふるさと意識を持つ。
- ③ 多くの人々が共生のシンボルとしての事業の継続を望む。



点灯後の太鼓演奏



イルミネーションの巻き付け

参加者・利用者の声

震災の風化を懸念して「復興が果たされても、イルミネーションを続けて欲しい」という声や、「実際に夜の森の桜を見たい」、「早く復興がなされるように」という早期の復興を願う声がありました。また、双葉の方からの「私たちのために行ってくれているようで嬉しい」との声もありました。

助成事業の成果

今回は前回から6万球増加した20万球のイルミネーションを点灯することができ、市民からの評価が高まった。

記者会見等のメディアを通じた発信および、継続して事業を行ってきた効果により、市民への事業開催までの興味を掻き立てる効果があったと思われる。点灯式典への参加者も以前より増加し、約1,000名の結果を導くことができた。また、参加者には仮設住宅等の住民も150名程度含まれており、いわき市で共に暮らす同朋である意識が広まった。

アンケート結果から、70%程度の方がいわき「光のさくらまつり」の所以を理解している。東日本大震災と原子力災害の風化・関心の希薄化を防ぐ趣旨も、いわき市民と双葉郡から避難されている方々が、いわき市に共に暮らす同朋として、共に浜通りの復興に取り組んでいくという趣旨も、市民意識として涵養されてきている。

助成事業の今後の展望・課題

本事業の趣旨をさらに多くの方々に理解してもらえよう、イルミネーションを通じた共生の意識を高めるために、今後は商店会との連携等、他の団体を巻き込んだ活動を広げたいと考えている。さらに、賛同が広がることで、イルミネーションの設置や交換費用も賄えると考えている。

また、ストーリー性を持たせ期待感を高めるような情報発信や、魅力を高めるイルミネーションの見せ方の研究など、足を運んでみたくなる工夫により、あまり参加のない県外の方々の誘致も目指したいと考えている。

そして、事業をさらに発展させるためには、イルミネーションによる効果を統計調査などで検証し、事業と市民意識について精査していくが必要と感じている。



第1回助成団体

■ 助成期間：2015年4月～2016年3月

■ 助成件数：20団体（一般公募枠：7団体 信用金庫推薦枠：13団体）

■ 助成金額：5,471万円（一般公募枠：2,494万円 信用金庫推薦枠：2,977万円）

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	特定非営利活動法人居場所創造プロジェクト	居場所ハウス被災者復興応援事業	岩手県大船渡市
②	社会福祉法人 夢のみずうみ村 こども夢ハウスおおつち	大槌山菜収穫体験学習	岩手県大槌町
③	特定非営利活動法人 移動支援Rera	外出手段を持たない住民のための助け合い送迎と見守りネットワークづくり	宮城県石巻市
④	特定非営利活動法人 MMサポートセンター	スプリンクラーを設置し原発避難地区への一時立入時等の発達障害児の宿泊・訓練等を継続するための事業	宮城県名取市
⑤	特定非営利活動法人 TEDIC	宮城県石巻市における不登校児童・生徒のサポート事業	宮城県石巻市
⑥	特定非営利活動法人 リアスの森応援隊	気仙沼自伐林家養成・活動支援事業	宮城県気仙沼市
⑦	一般社団法人 気仙沼市住みよさ創造機構	「産学官金一体となった気仙沼市の住みよさの創造事業」の推進	宮城県気仙沼市
⑧	特定非営利活動法人 本宮いどばた会	ふくしまへそのまち親子の心も体も元気プロジェクト	福島県本宮市
⑨	社会福祉法人 いわき市社会福祉協議会	災害に負けない地域づくり	福島県いわき市
⑩	認定特定非営利活動法人 いわき自立生活センター	被災地における高齢者の生きがいづくりとコミュニティづくり支援事業	福島県いわき市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑪	釜石よいさ実行委員会	釜石よいさ開催事業	岩手県釜石市
⑫	特定非営利活動法人 みやっこベース	宮古市における若者定住促進プロジェクト	岩手県宮古市
⑬	宮古市末広町商店街振興組合	宮古まちなか賑わい創出事業	岩手県宮古市
⑭	特定非営利活動法人 いわてマリンフィールド	「ふるさとと海との共生」を進めるユニバーサルデザイン事業	岩手県宮古市
⑮	女川町獅子振り復興協議会	平成27年度“復活！獅子振り披露会”	宮城県女川町
⑯	特定非営利活動法人 東松島まちづくり応援団	中心市街地商店街と地域コミュニティへの活動支援	宮城県東松島市
⑰	特定非営利活動法人 夢未来南三陸	南三陸地域コミュニティで連携協力を推進するための基盤づくり事業	宮城県南三陸町
⑱	橋通りCOMMON運営協議会	石巻市中心市街地における橋通りCOMMON(まちの担い手育成と賑わい創出)プロジェクト	宮城県石巻市
⑲	相馬野馬追野馬懸保存伝承委員会	相馬野馬追祭用甲冑(御貸具足)の製作	福島県南相馬市
⑳	特定非営利活動法人 カルチャーネットワーク	福島県南地域における地域情報発信事業	福島県白河市



第2回助成団体

■ 助成期間：2015年10月～2016年9月

■ 助成件数：22団体（一般公募枠：11団体 信用金庫推薦枠：11団体）

■ 助成金額：6,740万円（一般公募枠：3,556万円 信用金庫推薦枠：3,184万円）

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	特定非営利活動法人 チームふくしま	福島ひまわり里親プロジェクト	福島県福島市
②	特定非営利活動法人こそだてシップ	ママサロンこそだてシップ	岩手県大船渡市
③	特定非営利活動法人 まちづくりNPO新町なみえ	みまもり&移動支援「浪江町民の絆をつなぎ未来につなぐ新ぐるりんプロジェクト」	福島県二本松市
④	一般社団法人 こころスマイルプロジェクト	石巻市における、震災で心に傷を負った子どもたちと保護者へのアートや遊びを通じた心のケア	宮城県石巻市
⑤	特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク	石巻圏域の子育て環境改善のためのプログラム開催事業	宮城県石巻市
⑥	一般社団法人 さとうみファーム	地域資源を活用した、仕事づくりとコミュニティの再生	宮城県南三陸町
⑦	特定非営利活動法人 よつくらぶ	道の駅よつくら港「こども遊び場事業」	福島県いわき市
⑧	特定非営利活動法人 吉里吉里国	集落営林型自伐林業による生業・街づくり事業～薪が紡ぐ、なりわい・街づくり～	岩手県大槌町
⑨	特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻	マタニティ～未就園児親子の遊び場・居場所作りを通じた、子育て支援活動に関わる人材育成プロジェクト	宮城県石巻市
⑩	福島大学災害ボランティアセンター	「LIFE(生活・人生・いのち)寄り添い」包括サポートプログラムー子どもから高齢者までー	福島県福島市
⑪	特定非営利活動法人 キッズハウスりんごっこ	放射能や細菌から子ども達を守る屋内砂場の開設	福島県福島市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑫	特定非営利活動法人 おおさきエネルギーカウンスル	アースデイを通じた新しい価値観創造「おおさきにLOCALISM」プロジェクト	宮城県大崎市
⑬	認定特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	災害復興公営住宅のコミュニティづくり促進プロジェクト	岩手県遠野市
⑭	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター	仮設住宅住民の心身の健康維持・孤立感の軽減と災害公営住宅に係るコミュニティ形成	宮城県気仙沼市
⑮	認定特定非営利活動法人 桜ライン311	東日本大震災の風化防止と災害への意識啓発のための桜の植樹事業	岩手県陸前高田市
⑯	一般社団法人 SAVE IWATE	地域と人をつなぐ祭り・民俗芸能	岩手県盛岡市
⑰	復興さくらの会	被災地復興に向け、さくら基金を活用した桜の植樹及び維持管理等に係る事業	福島県いわき市
⑱	安波津野神社例大祭(あんばさま伝承祭り)実行委員会	安波津野神社例大祭用の神輿製作	福島県新地町
⑲	特定非営利活動法人 未来図書館	10年後の地域を担う中高生と大人の学びあいを活かした復興支援事業	岩手県盛岡市
⑳	特定非営利活動法人 やませデザイン会議	寄付が作る、新しい社会参加創造プロジェクト～復興久慈モデルを目指して～	岩手県久慈市
㉑	公益社団法人 みらいサポート石巻	石巻市復興祈念公園予定地における、住民主体の震災伝承	宮城県石巻市
㉒	特定非営利活動法人 幸創	就労継続支援B型・就労移行支援「こうそう」	宮城県利府町



第3回助成団体

■ 助成期間：2016年4月～2017年3月

■ 助成件数：22団体（一般公募枠：10団体 信用金庫推薦枠：12団体）

■ 助成金額：7,487万円（一般公募枠：3,697万円 信用金庫推薦枠：3,790万円）

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	認定特定非営利活動法人心の架け橋いわて	高齢化が進む被災地における長期的な心のケア活動	岩手県大槌町
②	特定非営利活動法人 釜石東部漁協管内復興市民会議	岩手県釜石市箱崎半島部の漁業集落復興まちづくり事業	岩手県釜石市
③	特定非営利活動法人 移動支援 Rera	移動を支え、暮らしを支え、復興を支える、地域の多様な担い手育成・連携事業	宮城県石巻市
④	特定非営利活動法人 仙台グリーフケア研究会	東日本大震災被災地におけるグリーフケアの実践と普及・啓発事業	宮城県仙台市
⑤	特定非営利活動法人 ふくしま30年プロジェクト	福島で安心して暮らせるように、放射能に対して不安を抱く被災者に寄り添う活動	福島県福島市
⑥	一般社団法人 Bridge for Fukushima	農業高校における実践的6次化商品開発事業	福島県福島市
⑦	社会福祉法人 福島市社会福祉協議会	外に出て、元気に過ごそう!!ふくしま!!	福島県福島市
⑧	特定非営利活動法人 本宮いどばた会	福島へそのまち親子の明日も元気プロジェクト	福島県本宮市
⑨	特定非営利活動法人 郡山農学校	市民交流型の農業再生とブランド野菜の育成事業	福島県郡山市
	特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター	子ども元気フィールド設置	宮城県石巻市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑩	商店街振興組合法人 釜石市大町商店街振興組合	Oh!マチ MUSIC FESTA 2016	岩手県釜石市
⑪	一般社団法人 まるオフィス	漁師ぐらしを次世代に伝える「すなどり先生」プロジェクト	宮城県気仙沼市
⑫	特定非営利活動法人 夢未来南三陸	南三陸コミュニティ再生・活性のための、住民の手による地域連携プロジェクト	宮城県南三陸町
⑬	一般社団法人 日本カーシェアリング協会	カーシェアリングによるコミュニティ支援	宮城県石巻市
⑭	一般社団法人 石巻じちれん	新渡波西地区「一人一人が主役のまちづくり」支援事業	宮城県石巻市
⑮	つるがや元気会	高齢化率が38.3%で、しかも東日本大震災で沿岸部より避難して来られた方が多く住む、鶴ヶ谷を元気にする交流事業	宮城県仙台市
⑯	特定非営利活動法人 まごころサービス国見センター	地域みんなの「居場所」づくり	福島県国見町
⑰	特定非営利活動法人 福島踊屋台伝承会	福島踊屋台伝承事業	福島県福島市
⑱	特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター	小高区の新たなコミュニティ・まちづくりを担う拠点の設置とサロン・イベントの運営	福島県南相馬市
⑲	浪江町伝統芸能映像記録作成事業実行委員会	浪江町伝統芸能継承事業	福島県二本松市
⑳	じょうばん街工房21	「いわき湯本温泉フラのまち宣言」関連事業	福島県いわき市
㉑	特定非営利活動法人 いわきイルミネーションプロジェクトチーム	未来へつなぐ光プロジェクト・サウンドイルミネーション	福島県いわき市

※特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンターの助成期間は2016年4月1日から10月25日

認定特定非営利活動法人 **日本NPoセンター** 『しんきんの絆』復興応援プロジェクト事務局

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245

TEL : 03-3510-0855 / FAX : 03-3510-0856

E-Mail : shinkin-npo-ouen@jnpoc.ne.jp / URL : www.jnpoc.ne.jp